

第5回南魚沼市立小・中学校学区再編等検討委員会議事録

日時 令和5年3月27日 午後3時から午後4時40分

場所 南魚沼市民会館 多目的ホール

参加 委員 17名
事務局 5名

議事

- ①第4回検討委員会の振り返り
- ②現段階での小中学校の適正規模について
- ③今後の協議の進め方について
- ④小規模特認校について
- ⑤その他

1. 開会（学校教育課長）15：00～
2. 挨拶（教育長）（塩川委員長）
3. 傍聴希望者について（許可）
4. 議事

教育部長 【資料―1】①第4回検討委員会の振り返りについて説明。

委員長 事務局より説明がありました。前回、出席された全ての委員からご意見をいただきました。様々な意見があり、今後の進め方については、資料のとおり承認をいただきましたことを確認します。

委員 続いて、②現段階での小中学校の適正規模について事務局より説明をお願いします。

教育部長 現段階での小学校の適正規模については、第4回での委員の皆様のご意見を踏まえ、学校教育法施行規則に定めた基準に沿った、複数学級を設置できる規模とすることを提案します。ただし、先ほどの報告でもありましたとおり、今までの統合などの経緯にも配慮する必要があることから、20年、30年先の将来を見据えた目標を定めたいうえで、段階的に統合していく案を検討する必要があると考えます。この点は、適正配置の検討の中でご議論いただきたいと思います。中学校の適正規模については、現在の複数学級が設置できる規模を基本とし、小学校同様、学校教育法施行規則の基準を提案します。

委員長 事務局の提案について、委員の皆様のご意見を伺います。

委員 第4回の検討委員会では集約された意見に賛成しましたが、40年後になると人口がおおよそ半分になります。河合雅司さんの本を読み返してみたら、現在1720ある自治体が半分になるのが2040年とされていました。ゼンリンの住宅地図を貼り合わせると大和地域は浦佐小・大和中を中心に1cmの円を描けます。効率的な配置だと思いましたが、地域性からみても小中一貫校がいいのではないかと思いました。六日町中学校と塩沢中学校を統合してバイパスの終点に大規模校を作ってみたらと思います。大月トンネルもありますし、上田地区も現塩沢中学校からそんなに遠くないです。適正規模も大事ですが切磋琢磨できるような中学校がいいと思います。そして旧石打小学校の跡地に中学校の小規模特認校を作って、石打地区に移住してくる人たちに魅力的に見えるような学校を作るのもいいのではないのでしょうか。

委員 先日湯沢の町議の人と話しましたが、湯沢学園では教員が不足するという話がありました。その時に大和地区の小中一貫校の話もさせていただきましたが、学校の先生が少なくなってきているので、なるべく早い段階で協議を進めていければと思いました。

委員 先日の議会で教育長から教員が減っていくという話がありましたが、もう一度ここに委員の皆さんにしていいただければと思います。

教育長 私からは教員の確保についてお話しします。二つの側面があり、南魚沼市は地元出身の教員が大変少ないです。教員を揃えるために新潟市や長岡市からたくさん来ていただいています。3年を単位として異動となるので、長く勤務する人は多くないです。3年もしくは6年で出身の地域に戻ります。小中一貫校を進めるためにはその学校に長く勤務することが大事です。小学校低学年から中学校までその子の成長をよく理解してあげることが小中一貫校の大切な利点です。教員の異動の回転が速いと長く勤めることができないので、小中一貫校の良さが発揮されにくいという点があります。

委員 議会の中で教育長から今の発言があって大変なことだと思いました。地域の方は知らない人も多いと思うので、再度お話いただきました。教育委員会が先生方を招聘するのが難儀なことであることと、長年継続勤務することが難しいと子どもたちにとって携わりがうまくいかないということを皆さんから共通認識でもっていただければと思います。

教育長 小中一貫校として教育プログラムをしっかり作っていけば先生方が変わっても大丈夫ではないかという考えもありますが、小中一貫校としては長くその学校に勤めている人がいるということが長所であるということを議会の中でお話させていただきました。

委員 湯沢は9年経ったと思うので、湯沢の情報があれば教えていただきたい。

教育長 湯沢学園は小学校と中学校が並立していてそれぞれに校長先生がいます。校舎は一つですのでそれぞれ連携しながら進めていると理解しています。

委員 先週石打小学校の第1回卒業生30名を送りました。新年度の新入生は17名です。新入生の予定をご覧になってお分かりのように、6年後に複式学級が誕生する恐れが非常に強いです。やはり、クラス替えができる大勢の仲間の中で鍛えていけるような教育環境を整えてあげることが子どもたちにとっては大事なことであります。中学校区を小学校区にしてバス通学となった場合、不便を被ることはないと思っています。それは湯沢学園が例であり、苗場の奥から通学していますが苦情を聞いたことはありません。大勢の仲間の中で育ててあげることが大事だと思っております。前回の検討委員会の中で私自身も大人の論理で子どもの教育環境を考えてしまったかもしれません。現在の状況で行けば中学校区が小学校区になるかと思いますが、20年後は分からないという厳しい状況であると思っております。

委員長 事務局の提案は直近というよりも長い時間軸で今後の動きを見ながら進めるということでしたが、皆さんの意見を考慮しながら事務局提案の通り進めるということでしょうか。賛成の方は挙手願います。

委員長 賛成多数で事務局提案の通りで決定しました。では、③今後の協議の進め方について事務局から説明をお願いします。

教育部長 【資料―1】③今後の協議の進め方について説明。

委員長 次回以降の進め方について、ご意見があればお願いいたします。

委員 十日町市は借地料の資料を出しながら検討を進めているので、資料があれば出していただきたい。統合した方が経費が浮いて保護者や生徒にとって利点があるということの説明できたらいいと思う。

教育部長 今借地料の話が出ましたが、他にも必要な資料があればこの場で出していただきたいと思います。

委員長 今この場で必要な資料があれば言ってください。また、後で必要な資料があれば事務局にご連絡いただければと思います。

委員 今の意見では合理的な部分が随分出てくるという話がありましたが、教育や福祉、コミュニティは非合理的なことを優先しないと現場に合わない部分がでてくると思います。事務局から示された進め方で賛成ですが、議論の中に数だけでなく非合理的な部

分についても配慮して進めていただければと思います。

教育長 今のご意見は大変大切なことだと思います。学区再編を検討していくときに様々な視点から見ていくことが必要だと思いますが、学校がどのように地域と共に教育を進めて子どもを育てていくかは教育の中身について関わる視点だと思います。コミュニティスクールのスタートという話がありましたが、地域と学校と一緒に子どもを育てていこうという大事なスタートとなりますので、校長先生方から感じていることをお話しいただければと思います。

副委員長 コミュニティスクールが制度として始まりますが、今まで全くなかった訳ではなく、今までも地域の方々から色々な形で学校の教育内容について協力いただいております。これからはさらに拡充して役割分担をしながら地域や保護者の方とやっていけたらいいと思っています。コミュニティスクールをきっかけに地域と共に学校について考えるいい機会がやってくると思います。実際に動き出すと難しいところはたくさんあると思いますが、少しずつ保護者や地域に上手に伝えて委員の皆さんに学校の在り方について知ってもらい、アイデアを出していただきたいと思っています。

委員 先ほどの資料についてですが、例えば大和中学校のバスに小学生も乗れるのかというような通学に関する資料もいただければと思います。

委員 中学校より小学校、小学校の中でも大和地域を時間軸として優先して進めていくということで、申し上げたいことがあります。今年度の学習発表会では子どもの数が減ってきていて、どうすれば子どもが増えるかを子どもたちの目線で地域を盛り上げる方法を考えたりしています。地域の方も保護者の方もどうなっていくのかという不安を持っていると感じています。どの学校も地域や保護者に支えられて教育活動を進めていますので、色々な議論がされていることを地域や保護者の皆さんに知っていただいて、一緒になって問題点や今度の見通しを考えていけたらいいと思います。

教育部長 地域との話し合いというご意見がありましたが、事務局としても答申が出る前に地域の声を聴く場が必要だと思っています。委員の皆さんの意見を聞いた上で進めたいと思っています。

委員 数字だけでは動きが見えないので、ロードマップの図を出していただいてありがたいです。南魚沼市は石打小も上田小も校舎の改築を伴わずにいずれかの校舎に入った形だったのでこの動きでいけるとは思いますが、大和中学校の改築が最優先だと思っており、それがあるとすればそこに加えて小中一貫校などを考えていかないといけないと思っています。このタイムテーブルでいくと統合協議から2・3年後に統合となっていますが、改築を伴うとこの時間では足りないと思います。もし大和中学校の改築が

決まっているのであれば、そのタイミングが大きな動きをするチャンスだと思います。大和地区は学園都市というイメージが強いので、あの地域で大きなアクションが起こると南魚沼全体に大きな余波をもたらすのではないかと思います。三用小・赤石小がどちらかの校舎に移るのか、浦佐小学校に統合するのか、地域の特性に合わせた動きを検討していく必要があると感じています。

教育部長 具体的なお話をいただいてまさにその通りだと思います。次回の会議以降、まずは小学校、その次に中学校という委員会の中での会議の順番を申し上げております。事務局の考えとしては地域ごとの総合的な議論が高まっていることを期待しておりますので、よろしくお願いいたします。

委員長 貴重なご意見ありがとうございます。今後の協議の進め方について、事務局の提案の通りとします。次回からは適正配置の検討に入ります。今回の意見は事務局でまとめて次回以降検討していけたらと思います。では、④小規模特認校について事務局から説明をお願いいたします。

課長 ④小規模特認校について説明。

委員長 前回の欠席だった2名の委員から小規模特認校について意見をお伺いします。

委員 去年PTA会長をされており、地域から子どもがいなくなることについては早い段階から地域と学校とで話し合っています。特認校なので他の地域から来てもらえるようにオープンスクールをしていますが、今までよりも多くの人に来ていただいています。子ども同士が放課後に遊びたいとなった時の送り迎えや学童の時間の延長など、問題点もあります。

委員 この場を借りて特認校の説明をさせていただきます。まず、嬉しいことに令和5年度の入学が5名となりました。後山小学校は困り感のある子、特性のある子も多いので、一人一人のペースに応じた学習を進めております。そして全校でいつも一緒に遊んでいます。活動する、交流する、発信するメンバーがいつも限られてしまうことがデメリットであります。そのままでは教育活動に支障が出てしまうので地域の方、保護者の方、他校との交流でその力を伸ばしていきたいと考えております。

委員長 小規模特認校は適正規模とは切り離して今後の在り方について協議する必要があります。事務局の提案についてご意見がある方はお願いします。

委員 旧塩沢町の際は栃窪小学校をいかに残すかを議論していましたが、今回は南魚沼市の教育として小規模特認校をどうするかという議論になると思います。市内の2校は非

常に特色があるのだと思います。学校に馴染めない子の居場所をどうするかを考えていくのか、旧塩沢町のように学校を残すために議論していくのかというのは分けて考えていく必要があると思います。

委員 今後もし大和地域の小学校が一緒になるとすると、後山小学校だけ中学校から一緒になるという状況になると思います。人数が多い小学校の子どもは入学当初から友達が多いので、将来的に大和地域が一つの小学校になるのであれば後山小学校も一緒にした方がいいのではないかと。地域と PTA に説明した上で進めていければいいと思います。

委員 小規模特認校へバスで通えるようにしたり、補助を出したりして特認校が選択肢になればいいと思う。小規模特認校へバスを延長することも考えてほしい。

委員長 小規模特認校について事務局の提案に賛成の方は挙手をお願いいたします。賛成多数で小規模特認校については事務局の提案通りと決定しました。
⑤その他について委員の皆さんから何かありませんでしょうか。
では事務局からお願いいたします。

課長 今月末をもって委員を退任方がいらっしゃいます。後任の委員につきましては今週 30 日に開催される教育委員会にお諮りし、承認後に委嘱予定です。

委員長 退任される委員より挨拶をお願いいたします。

委員 南魚沼の子どもたちのために教育をどうしたらよいかを考えさせていただく貴重な機会を与えていただきました。20 年後 30 年後も南魚沼の子どもたちが明るく輝く未来を築ける検討の場だと思っています。これからも知恵をいっぱい出していただいて、南魚沼の子どもたちのために良い教育施策を講じていただければありがたいと思っています。

午後 4 時 40 分終了

5. 次回の開催予定：5 月 12 日（金）

6. 閉会